

第20回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年1月28日（木）17：00～18：00

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授（WEB参加）

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師（WEB参加）

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

森尾 博之 危機管理防災部長（WEB参加）

山崎 達也 福祉部長（WEB参加）

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 緩やかながらも減少に転じていることはよいことであり、飲食店はよく協力いただいている。そのことから、20代、30代の陽性者が減少しているのではないか。（岡部委員、川名委員、坂木委員）
- 日中は飲食店が開いているということもあり、日中の制限が弱いと言える。今後もう一段強化するとすればそのあたりにフォーカスすべきではないか。（川名委員）
- 高齢者は横ばいであり、減少させていかなければならない。高齢者施設等でクラスターが発生しているため、それらの施設へのサポートが必要ではないか。施設職員へのPCR検査の結果を注視したい。（岡部委員、坂木委員）
- 元気な高齢者の陽性例も散見されることから、働きかけが重要ではないか。（坂木委員）
- 院内発生を防ぐためにも、陽性者受け入れ施設への職員の検査も検討いただきたい。英国では毎週1回強制、希望すれば2回検査を受けられる病院もある。（竹田委員）
- 職員への検査については、検査能力との兼ね合いも検討しながら実施すべきではないか。（讃井委員）
- 院内発生を防ぐためには初動対応が重要であることから、毎日の健康管理を適切に行う必要がある。そういった専用アプリもある。（竹田委員）

【県の対応】

- 委員の主な意見を1月29日開催の第41回新型コロナウイルス対策本部会議において報告を行った。

イ その他

- 今後の病床確保については、可能であるならば一般医療を圧迫しない形で診ていただける病院に拡充をお願いすることがいいのではないか。（岡部委員、川名委員）
- 自宅にいる方は医療につながりにくい。そういった方が外来診療のような

ものを受けられるようにすべきではないか。（岡部委員）

- 変異株については、明らかになっていない部分も多く間違いなく危険だというエビデンスはない。最悪の場合に備えて体制を検討することはいいが、データをしっかり見ていかないと一般の方の誤解を招くことになる。（岡部委員）